

# 大仙市アーカイブズ ニュースレター 第15号



大仙市マスコットキャラクター  
まるひちゃん

## 令和4年度企画展 病とたたかう人びと ～展示資料を紹介します～

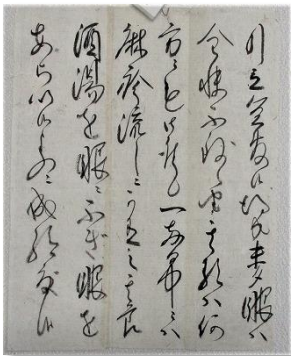
新型コロナウイルスの世界的流行により、コレラやペストなどの感染症と人類の歴史が改めて注目されています。

先人たちが残した感染症に関する資料を通じて、記録として残すことの大切さを再認識するべく、令和4年度企画展「病とたたかう人びと～天然痘から新型コロナウイルスまで～」を開催しました。

展示資料の一部を紹介します。



期間：10月18日（火）  
～12月17日（土）  
会場：大仙市アーカイブズ  
来場：のべ79人

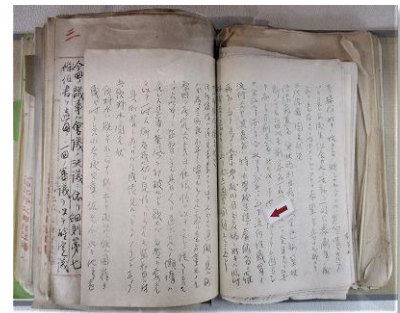


### 「命さだめ」と恐れられた麻疹<sup>はしか</sup>

書状断簡（江戸後期）

麻疹流しの風習があったこと、麻疹で目が見えなくなる場合があり、その対策として酒湯で目を洗っていたことがわかる。

山口家文書（借用）



町会々議録（大正8年）

大正7年度の秋から冬にスペイン風邪（インフルエンザ）が流行したことがわかる。特に小学校で流行し、臨時休校の措置がとられた。

大曲市役所文書

猛威を振るった

インフルエンザ

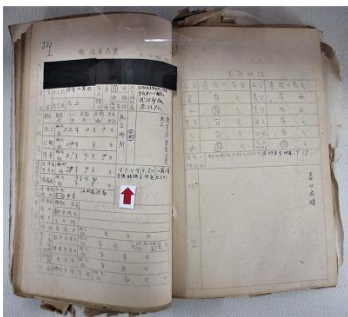


### 隔離病舎の記録

看護日記（戦前）

大沢郷村の隔離病舎での看護日記。大沢郷村では腸チフスの患者が隔離病舎で治療を受けていた。

大沢郷村役場文書



### 戦争と感染症

戦歿者名票綴（昭和）

戦没者の個別票。戦地でマラリアにかかり、復員後に結核を併発して亡くなったことがわかる。

大沢郷村役場文書

スペイン風邪（インフルエンザ）予防のため内務省が作成したポスター。「マスク」と「うがい」を推奨した。

出典『流行性感冒』内務省衛生局（大正11年）



ひがうとくスマ

## おすすめ資料紹介 渡部分水家資料

南外地域の渡部分水家は南檜岡村肝煎も務めた旧家。近世の肝煎文書のほか、近代資料も数多く残されています。



渡部分水家（大正5年）

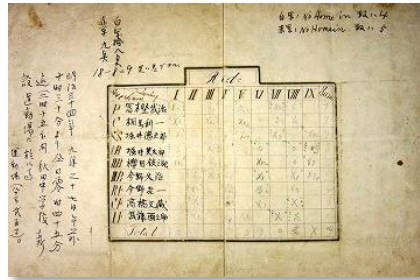


### 濟々義会々誌

濟々義会は、明治30年(1897)に青年達により結成され、現在の生涯学習や青年会活動に通じる活動を行った。

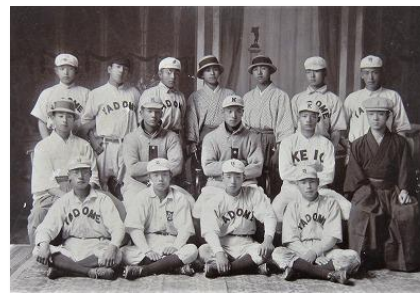
会誌の内容は、村の現状分析や村政に対する提言や教育論など多岐に及び、漢詩や短歌などの文芸欄もある。当時の地域課題や青年達の考えを知ることができる資料。

明治30年11月発行の第1号から大正3年1月発行の第52号まで44冊残されている。(欠本8冊)



### 野球スコア

明治34年(1901)9月27日の第3回秋田挑戦杯のもので、南檜岡倶楽部と秋田中学が対戦。結果は9対18で秋田中学の勝利。



### 記念写真（秋田中野球部）

大正2年(1913)、慶応大の選手達から指導を受けた記念に撮影されたもの。

後列右に写る渡部郁太郎は秋田中学（現在の秋田高校）で野球部主将を務めた。なお、郁太郎の2年後輩が夏の甲子園第1回大会の準優勝メンバーにあたる。

## 雄物川舟運の要衝 角間川本郷家資料 ～現在調査中～

本郷家は大曲地域角間川の商家で、雄物川舟運の要衝として繁栄を極めた明治中期には、県屈指の地主となりました。現在、国登録有形文化財に登録されている旧本郷家住宅は、隣接する北島家・荒川家とともに旧地主屋敷群として、平成28年から整備が進められていますが、本郷家の古文書等の記録資料は、昭和61年にノースアジア大学に寄贈されています。

大仙市では、ノースアジア大学から御協力をいただき、今年度から定期的に資料調査を行い、資料のデジタル化を進めています。



旧本郷家住宅



令和6年度までに、約4,000点の資料をデジタル化する予定です。

本郷家について、詳しくは、大仙市ホームページ「旧本郷家住宅とは」をご覧ください。

